

今を未来に

宿題に関する保々小学校の共通理解

保々小学校では、平成26年度から学校づくりビジョンの中で、家庭学習の定着を家庭とともに協力して取り組むことをお伝えしてきました。この当時は、宿題をしていくことが当たり前になっていない実態がありました。学力・学習状況調査の結果も全国平均をかなり下回っている実態があり、学力の定着と向上が大きな教育課題となっていました。

学力の定着と向上をめざすために、授業の充実と家庭学習の定着が学びを進める車の両輪となると捉えています。学校では教職員の校内研修の充実を図り、家庭には土日も含めた家庭学習の取り組みをお願いすることにしました。また、家庭学習については、各学期に1週間程度「家庭学習振り返り週間」を設け、保護者の方にも家庭学習に関心を持っていただき、お子様の頑張りを応援いただくようお願いしてきました。その結果、学年の目標時間はもとより、その内容を工夫するお子様が年々増えてきました。また、土日の家庭学習の充実を図るため、自主学習の取り組みを学級だよりなどで紹介するようにもしてきました。

家庭学習の取り組みは一年一年の積み重ねと捉えています。そのため、職員間で以下のことを共通理解と確かめ、裏面に各学年の家庭学習の手引きを掲載することにしました。各家庭のご協力、お子様のためによりしくお願いします。



【宿題とは何か、何のために出すのか】

- ・宿題は『家庭学習の一部』と捉える。その日に学んだことの復習を基本の内容とする。
- ・学年が進むにつれ、量より質を大事にできる子を育てることをねらいとして働きかける。
- ・学ぶことは楽しい、わかることは楽しいということが小学校期にわかる子を育てていきたい。
- ・毎日の積み上げで、力をつけることができる。

【宿題の内容と出し方】

- ・内容としては、漢字と算数は毎日の宿題に入っているようにしたい。
- ・量は、全員ができる量とこれだけはやって欲しいと願う量を考えて出す。
- ・個別に内容や量を調整することはある。
- ・時間の目安については引き続き「10分×学年数+10分」と示す。(中学校1年生の段階で1時間以上集中して学習ができることが求められることから)
- ・目標時間に達しない子は、その時間を自主学習などに充てる。

【宿題をしてこなかった子への対応】

- ・「わからなかったからできなかった」という子もいる。忘れてきた理由を本人と確かめる。
- ・その理由によっては、学校で休み時間を使ってやらせることもある。少なくとも、やらなくても・出さなくても「よし」とはしない。

【自主学習について】

- ・内容は、宿題や授業内容に関連したことを、話し合っ進めていくようにする。
- ・「自主学習とは、学力に結び付く内容である」ことを共通理解とし、例えば「文を書く力をつけたい」「まとめる力をつけたい」「わかりやすくまとめる、表す力をつけたい」など、「何のためにそれを自主学習としたのか」を子どもたちが意識できるようにしていく。
- ・自分で工夫しながら自主学習に取り組める子をめざして、発達段階に応じた形態をとる。

【予定帳を大事に書かせよう】

- ・予定帳を丁寧に書かせる。学習内容も書かせる。
- ・宿題が何かわからないような書き方は認めない。子ども自身が気づくように働きかけていく。